

湘南学園だより

〔臨時号〕2018年2月8日 発行

次期学園長に山田明彦氏を選任

湘南学園理事会

川井現学園長の任期が、2018年3月末日をもって

終了する事から、理事会では次期学園長（2018年度から2019年度）の選任を進めてまいりました。今般1月20日開催の臨時理事会において、次期学園長に山田明彦氏

を選任致しましたので、ご報告致します。

選任にあたり、学園長候補者を学内教員及び学外の、教育に造詣の深い方から同時に求めましたが、二名の候補者の推薦を、それぞれ規定数の学内教員あるいは評議員の方

から頂きました。理事会では、順次抱負等に関するプレゼンテーションを頂戴するとともに、質問等により各候補者の考え方を理解した上で、山田明彦氏を選任致しました。

これからの来るべき100

周年に向け、山田学園長を心に様々な課題を乗り越え、建学の精神と培われた伝統を堅持しつつ、更なる発展を目指してまいります。

皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

人間力豊かな学園生の成長を願って

協力と信頼の輪を 未来への希望を

次期学園長 山田明彦



このたび湘南学園の次期学園長に選任されました。関係者の皆様方に心からお礼を申し上げます。お預かりした使命をはたすべく精いっぱい努力してまいります。

これまで学園中高の教員として30数年間奉職してきました。一昨年度まで中高の校長を6年間務めさせていただきました。大勢の卒業生や在校生、保護者の方々のご縁に

恵まれ、多大なご協力を受けて職務を続けることができました。湘南学園は幼・小・中高からなる総合学園であり、教職員と保護者が連携して手づく



りの一貫教育と運営を進めてきた私立学校です。建学の精神には深い教育理念が流れており、藤沢・鶴沼という素晴らしい立地ロケーションにも恵まれています。

私学として全く独自の「共同体」が形成され、80年以上も存続してきたのは奇跡的なことです。様々な危機も経て、そのつど原点への回帰と再出発が自覚され、その中で全学的な絆が深められてきました。学園全体に育まれた明るく活気ある校風は、関係者の誰もが共有する大切な宝です。

日本と国際社会の動向には厳しさが深まっていますが、湘南学園の教育の志には不滅の光があります。皆さんで誇りを共有し、全学的な信頼関係や協力体制を前進させ、存続発展の土台を強固なものにしていきたいものです。微力ですがこれまでの経験と反省を踏まえ、新たなルネサンスを期して取り組んでま

いりたいと存じます。どうかご教示とご協力をお願い申し上げます。

ご入学と通学への感謝

幼・小・中高に在籍する園児・児童・生徒の人数は、先月末現在で1944名おられることを確認しました。ごきようだいで通われるご家庭も数多くおられます。

ご自宅は神奈川県全域から周辺の都県にまたがり、数分で登下校できる近隣在住の学園生から2時間前後も乗り継いで登下校する学園生まで実に幅広い通学区域の分布に圧倒されます。数多い学校の中から本学を選んで入学して下さった2千名近くもの学園生の生活に私達は向き合っているのです。感謝の気持ちをお忘れてはいけないと思います。豊かな学びや体験を重ねて楽しい学校生活を送り、社会を生きぬく力と意欲を身につけて卒業してほし

い。こうしたご家庭の切なる願いを受けとめ、教職員はスクラムを組んで温かな関わりを心がけなければなりません。

「一人ひとりの学園生を大切にし、声かけ・寄り添い・励ましに努める」この鉄則を改めて心にとめ、保護者との率直な対話を大切にして進んでまいります。

学園の礎・PTA活動に

ご参集を

湘南学園のPTAは、年間を通して実に多彩な活動を展開されています。全学バザー・教育文化事業と援助費企画・地域奉仕や防災・サークル活動と教養講座・水の輪と母の文庫など他校にない驚くべきラインアップです。評議員会や理事会へつながる経営参画のお仕事もあります。ご家庭やお仕事のある中、ボランティアのお立場で多大なご尽力を重ねて下さる方々のお

力によって学園は支えられてきました。

入学されたご縁は子どもたちだけではありません。お母様やお父様が出会われて新たな親交を重ねていただくこともとても大切なことだと常々考えています。卒業してからもそのご交流は続かれましますし、卒業生が後年お子様を入学して下さるご縁にも数多く恵まれております。

お仕事や介護などの多忙化も背景に、委員の選出や行事の人員確保でご苦労がのらるる状況についても伺っています。お子様の年齢を超え、居住地域のご縁も受けた交流の輪が広がることを祈り、PTAの諸活動にもぜひ参集されることを願っております。PとTの共同経営を支える教職員と保護者の共通理解を深めていくことが肝要だと思われまします。保護者も教員も様々な悩みを抱え、レジリエンス（復元力）が切実に求められる時代です。子どもたち

の成長を願って率直な情報交換や気づき合いを広げていくことが大切でしょう。PTA行事に対して全般に教員参加が少ない状況は反省されまします。条件整備も考慮しつつ、PとTの語り合いや学び合いの機会を学内にもっと展開できたらと考えています。

現代の動向と次世代の将来

人工知能が社会生活に浸透し、ロボットが新たな業務を担い始めました。様々な分野の仕事で雇用がカットされ、次世代の人間はストレートなキャリア形成が難しくなるとも指摘されます。「思考力・判断力・表現力」を身につけ、膨大な情報から主体的に取捨選択して生きぬく必要が強調されています。他方で日本は高齢社会が新たな段階に入り、人口減少を軸とする困難の深まりが予想されています。先行きの見えない国際社会

で「自国中心主義」が強まり、激しい競争と対立の中で孤独や不信が広がっています。次世代の子どもや若者が抱える不安や閉塞感に、我々大人はどこまで気づき、どのように接点を持って働きかけているでしょうか。

湘南学園は希望を語り、示す教育を大事にしたいです。自己肯定感やコミュニケーション力を育てる指導を重視していきます。

「持続可能なグローバル社会の構築に寄与する人間を育てる総合学園」を仮説にして、「ESD」の理念を軸に学園教育の全体像への共通理解を深めることは、教員側の新たな課題意識になっていきます。持続可能な世界をめざし、自分の力を生かして社会の進歩に貢献できる人間を育てたいと考えるものです。

国際社会に貢献する日本の使命はすそ野が広く、日本の次世代一人ひとりが活躍できる舞台は全国と海外の広い場

所で用意されているといえるでしょう。先行世代の懸命な努力や生き方を知り学ぶことで、きつと各自の意欲が喚起されることでしょうか。

学園生活はそこにつながるチャレンジの時代でもありません。居心地良い拠点に恵まれ、地道に努力し仲間と共に取り組む達成感や楽しさを重ね、自主性を伸ばし、自分の個性や持ち味を自覚して進路を選んでほしいものです。どこへ踏み出しても新たなつながりを広げて生きていける展望を持ってもらいたいです。

未来につながる人間力の土台

豊かな言語能力と感性。学園生に特に伸ばしてほしい人間力と考えています。幼小中高の一貫教育を通してじっくり育んでいってほしいと願っています。

まず「聞く」「話す」「読む」「書く」の4領域を軸とする国語力が重要です。

相手が誰であれその話を集中して聞けることは社会生活の基本です。「対話と傾聴」はご家庭や学校の中で経験を重ねていくものです。「聞き上手」は包容力や共感性にもつながっていきます。話す力も時間をかけて養っていくものです。学園生は学校行事や総合学習で発言・討論する機会やプレゼンテーションの場数を重ねていきます。大学生や社会人になって率先リーダーできる人が少なくありません。

読書の奨励を全学的な重点テーマとしたいと考えます。活字文化に親しむことは問題意識や視野を広げ、豊かな世界観の形成を助けます。書くことは自分の教養を総合し自分らしさを表現する大事なツールでもあります。

英語教育の強化も必須です。母国語と外国語の言語能力を総合的に鍛えていくことは、変わりゆく大学入試の要請に応える武器ともなりま

す。授業力を高め、狭き門を突破する学園生を輩出し、進学校としての実績を高めることも重要な課題です。

スマートフォンが普及し、役立つ情報に簡単にアクセスできる便利な時代になりました。しかし「スマホ依存症」や「SNS過敏症」を警戒する必要がありま

す。知らず知らず自分の世界が狭まり、予想外のリスクに覆われ、貴重な時間を失っていく恐れがあります。それは大人も子どもも共通です。ネット時代のメディアリテラシー教育は全学的な課題であり、スマホ・SNSをめぐる啓蒙の教育をPTAとも連携して推進したいと考えます。

「自然に親しむ」ことで人間の感性は磨かれます。花や樹木の美しさ、生き物の不思議、人びとの様子などに目を向け、鳥や虫の奏でる世界や多彩な音楽の世界に耳を傾ける豊かな感性を育てたいものです。生命や人権を大切にす

る感覚や、人の悩みや痛みに思いを寄せられる感受性は、まず周囲の大人がたえず大事にして働きかける中で育まれていくものです。

自然や事物との直接の触れ合い、実体験を伴う活動を大切にすると、中高の総合学習や研修旅行は地域の景観や住民との出会いと交流を大切にします。

スポーツや部活動に思いきり取り組んで心身を鍛えてほしいです。仲間と励まし合って体力と技能、忍耐力や協働性を、そしてリーダーシップを養うことは、将来の人生や仕事を支える貴重な力になります。

学園生にはすべての学びと体験を通じて、「考える力」や「感じる力」を深め、「伝える力」を養ってほしいと思います。学園生の様々なチャレンジと成果に注目し、励ましの声かけを皆で心がけていきたいものです。

全学の連携をさらに豊かに

「挨拶ができる子ども」

は、各パートの指導目標で大事にされてきたことです。他方で、保護者や外来者に対して「きちんと挨拶ができない先生方がいる」とのご指摘を受けることがあります。謙虚に振り返ってみるべき事柄です。将来どんな職場や居住地域に入っても第一に大切な基本であり、わけへだてない気持ちの良い挨拶が交わされる学園全体でありたいと思いません。

湘南学園80周年を機に「チーム湘南学園」の協力体制が格段と強化されました。同窓会は教育振興基金を準備され、グローバル教育やキャリア教育で絶大なご支援をいただきました。後援会にもヤングアメリカンズなど様々な企画で貴重なご支援をいただきました。学園カフェテリアは独自の学食として世間の注目

を集め、湘南食育ラボ様には食材にこだわる美味しいランチの朝食や説明会・諸行事のバックアップなど、食育分野の開拓を通じて学園関係者の素敵な居場所を確保していただきました。

大震災以来、鶴沼地域自治会の皆様との交流協力関係も発展しました。防災訓練や交通安全教育を通じて今後もお力をお借りいたします。今後も地域に開かれた私学としての活性化をはかりたいと存じます。

今年湘南学園は創立85周年を迎えます。時代の変化も見すえ、「創立100周年」へ向けて学園教育の全体的なブランドデザインの協議も開始できればと考えます。

学園生は当然個々には性格や気質の違いがありますが、笑顔の広がるフレンドリーな校風や自主性を発揮するパワーは我々の誇りです。長い年月を経ての交友関係の広がりや卒業後も維持される絆の深

さには感心させられます。そのネットワークが重層的に学園の土台を支えて下さっています。

学園生の成長と幸福のために対話と協力を惜しまず、自主性を発揮して手づくりの取り組みを展開することは学園教育の生命線です。学園生・教職員・保護者・卒業生。それぞれの間でそして相互の間でコミュニケーションと支え合いを深め、様々な場面で学園生の学びと成長に貢献していただきたいと存じます。どうかよろしくお願い申し上げます。

